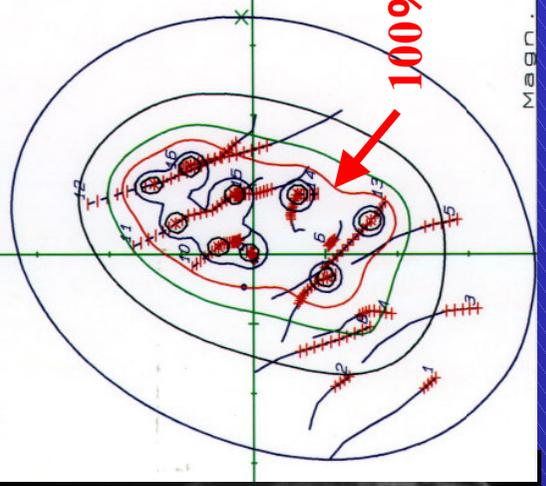
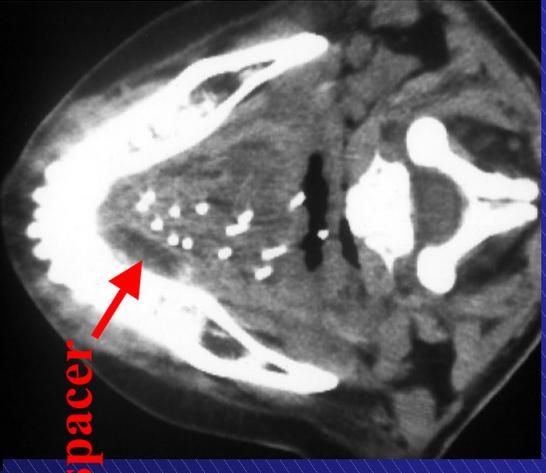
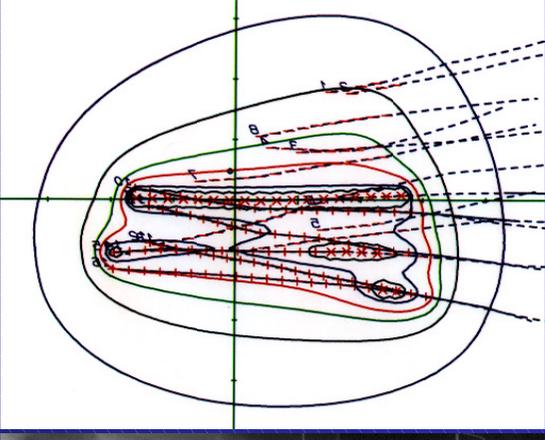
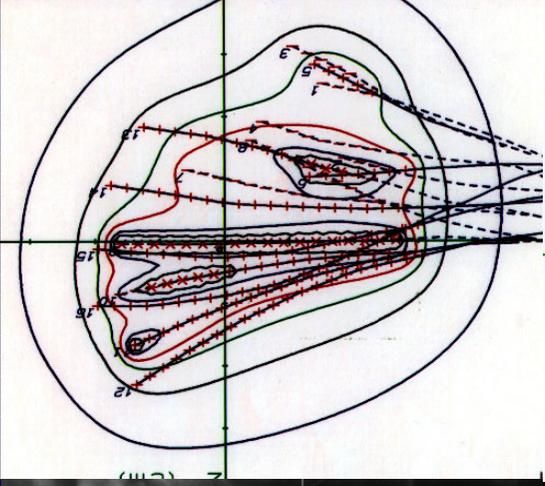
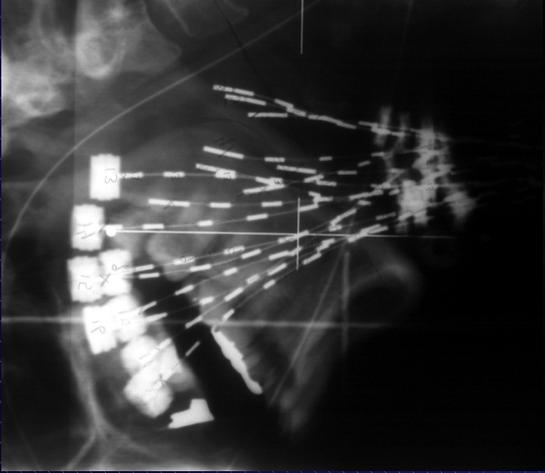


# 動注併用外照射後の高線量率組織内照射により制御された進行舌癌の1例

浜松医大放射線科 西村哲夫, 鈴木一徳, 今井美智子, 阪原晴海  
同口腔外科 福田廣志

- 症例 51歳女性
  - 右舌縁原発中分化型扁平上皮癌(大きさ65 mm × 35 mm × 30 mm, T4N0M0)
  - 深い潰瘍と舌根部進展あり
- 治療
  - 動注療法(1日目THP 10 mg/m<sup>2</sup>, 2日目CDDP 25 mg/m<sup>2</sup>, 3日目よりPep 2 mg/body/日)
  - 外照射(<sup>60</sup>Co), 動注開始1週間後より36 Gy/18回/25日, Pep 合計 56 mg
  - 組織内照射, 外照射完了1ヶ月後
    - 手技: 全身麻酔, 気管切開術, アプリーケータ16本装着
    - Dose prescription: 線源から5 mm (geometrical optimization)
    - 線量 32 Gy/8回/4日(1日2回、9時および16時に照射)
- 治療効果
  - 外照射後腫瘍の縮小あり、切除せずに組織内照射を選択
  - 組織内照射1ヶ月後退院、その後発なく外来通院
  - 舌の粘膜の萎縮と刺激物の摂取制限はあるが合併症なく治療後5年で無病生存中
- 結論 動注と外照射の併用後の組織内照射は進行舌癌に適用しうる

# 確認写真，線量分布図

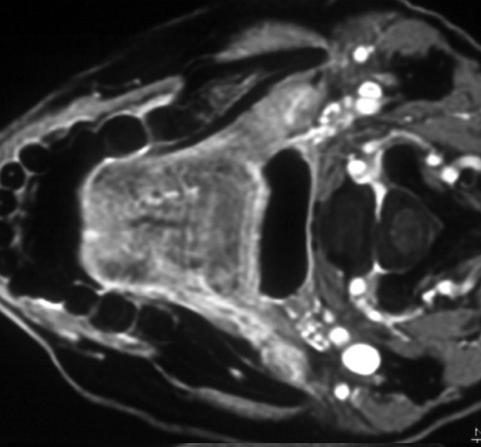
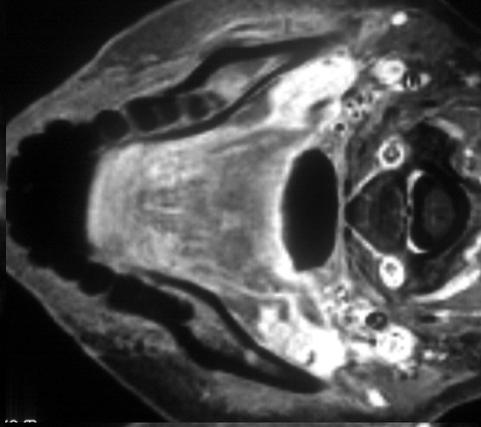
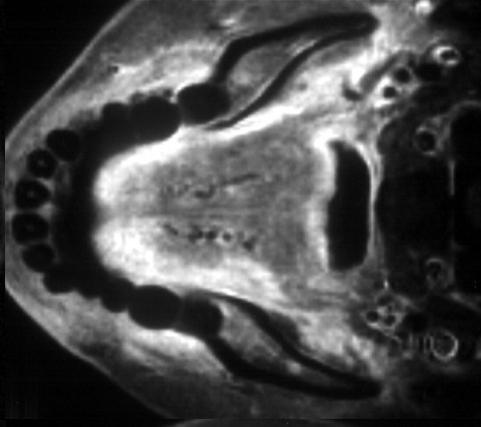
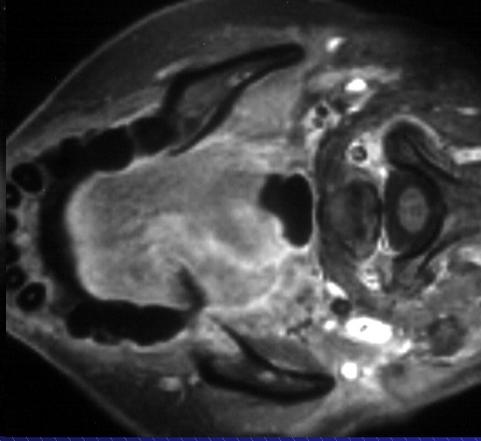
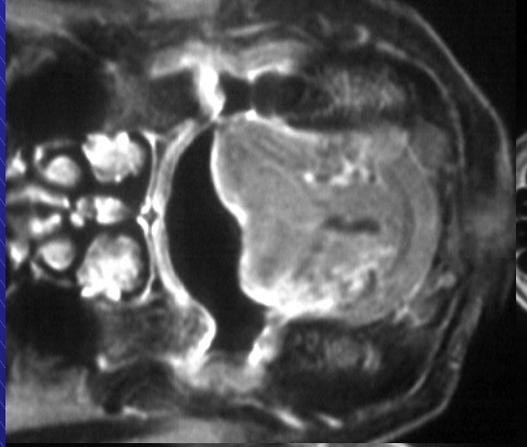
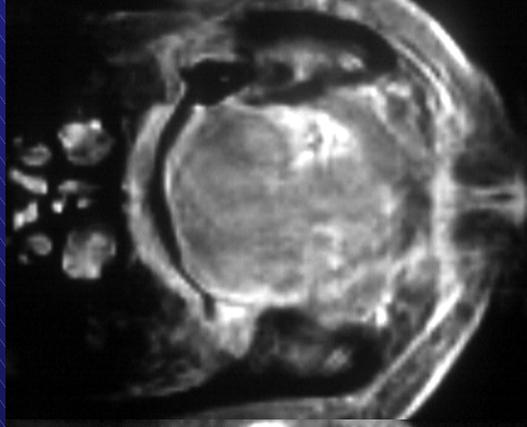
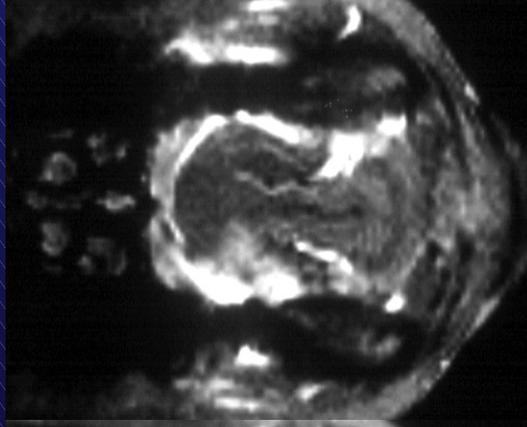


正面

側面

横断面

# MRI所見



治療前

組織内照射前  
(腫瘍縮小)

治療後3ヶ月  
(腫瘍消失)

治療後4年  
(無再発、右舌萎縮)